

秋の通勤災害を防ごう！

日没が早まり、夕方の通勤時間帯に薄暗さを感じる日が増えています。さらに、秋雨で路面や構内の床が濡れると、転倒などのリスクが高まります



事例1：雨で濡れた歩道で転倒

傘を差したまま小走りで歩いていた。雨で濡れた段差に気づかず、足を取られて転倒。



ポイント

雨の日は足元が滑りやすく、傘で視界も狭くなります。

小走りは転倒のリスクを高めます。

事例2：自転車通勤中、車と接触

退勤時、ライトを点けずに自転車で行く中、交差点で車に接触して転倒。



ポイント

夕暮れ時は、自分は「見えている」

つもりでも、車からは見えにくいことがあります。早めのライト点灯が重要です。

ケガをしないためのポイント

①雨の日は「足元」と「周り」の確認を

- ・濡れた路面、マンホール、白線、タイル床はすべりやすい。
- ・傘で視界が狭くなるため、交差点・段差では一度止まって確認する。
- ・滑りにくい靴を選び、歩幅は小さくする。

雨の日は、足元確認とゆっくり歩行が基本です。



②夕暮れ時は「見える」より「見てもらう」

- ・自転車・バイクは早めにライト点灯する。
- ・反射材、明るい色の服、反射ベストを活用する。
- ・スマホを見ながらの歩行・運転はしない。
- ・車の死角に入らない。



夕方は、自分が思う以上に相手から見えていません。

③焦った時こそ「急がない・連絡する」

- ・遅れそうでも走らない、無理に横断しない。
- ・自転車・バイクでスピードを出さない。
- ・交通機関の遅れや悪天候時は、早めに会社へ連絡する。
- ・危険を感じる道や冠水した場所は避ける。



焦りは判断ミスを招きます。安全確保を最優先にしましょう。

「急がない」「よく見る」「無理をしない」を意識して、安全に出勤、帰宅しましょう

★今月の安全衛生川柳 ～ 急ぎがちな朝こそ、“ちょっとした余裕”が事故防止につながります。

あせらずに ゆずる気持ちで 事故防ぐ

(滋賀支店 スタッフさんの作品)